

(高鍋町花)
なでしこ
サポーター

ひまわりで
元気を!!



■今回は染ヶ岡の環境保全協議会（橋本重美会長）を訪ねました。この地域は、4年前からキャベツ、白菜の緑肥としてひまわりの植栽を始め、今では一千万本、75haという日本最大級の面積になりました。



多くの人でにぎわうひまわりイベント

記者 これまで苦しかったことや大変だったことは。
大脇 農家の手作りのイベントとして立ち上げたので、協力してくれる農家さんに、やって良かったと思ってもらえるイベントにすることが大変でした。

8月の17・18日のイベントには、県外からの来場者も多く、町の活性化にもつながろうと約30軒の農家が力を合わせて頑張りました。

記者 これまで嬉しかったことや楽しかったことは。
橋口 地域や同業者を越えて一つの活動が出来たこと。
三雄 今では皆さんの協力で日本最大になったことや、協力し



役員や農家の若手の皆さん

飛鳥 ネットを活用したPRをしてみたが、新しいパンフレットの作成や、見てくれる人の視線の動き等色々工夫しなければいけないところが大変でした。
前田 種まきの時期の気候とのタイミングに毎年苦労します。

記者 ひまわりイベントについてアピールしたいことは。
三雄 年々お客さんも増えているので、それに応えられるよう頑張りたい。また、

記者 これからの目標や、やってみたいことは。
大脇 キャベツの産地であることのPRやブランド化への取り組み。
橋口 畑に水も来るようになってるので、九州はもろろん日本の食糧基地になれたらと思うし、農商工連携を通して、町の活性化に頑張りたい。

てくださる他の業者の方々と知り合えたこと。
飛鳥 お客さんに感動したと言ってもらえることや、農家の気持ちだが、このイベントでひとつになっていると感じたとき。



橋本重美 会長

口蹄疫と言う暗い出来事の中で、ひまわりを通して皆さんを元気づけられたことが私達の誇りです。今では農商工巻き込んだ横のつながりもでき、ひまわりの花のように丸い輪が出来たことを本当に嬉しく思います。

キャベツや白菜をドンドン食べてもらいたい。
前田 TPPや高齢化など負の要素があるが、元気な生産地があることを発信し、生産者と消費者の懸け橋となるイベントにしていきたい。

◆編集後記◆

気象庁は、災害の危険性を知らせる情報を「注意報」、「警報」、「特別警報」の3段階に分けて発信しているが、今回の伊豆大島での災害では特別警報は出していない。

また、台風が来る前に土砂災害警戒情報を出して大島町に伝えられたが、それが避難勧告や避難行動に結びついていなかったことが報道されている。災害に対する謙虚さが培われていなかったことが悔やまれる。

避難情報伝達で行政は「空振り」は許せるが、失敗は許せない」との思いで、早め早めの対応が望まれる。

(徳久信義記)

平成25年11月1日発行